

平成 30 年度 第 4 回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：平成 30 年 10 月 3 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
場 所：市役所第 1 庁舎 4 階第 1 委員会室
出 席：審議会委員 緒方泉会長、中山早由利副会長、久池井良人委員、谷口治委員、
都甲康至委員、平川由記子委員、松田信一郎委員
事務局 青谷昇教育部長、力丸宏昭文化課長、
川原幸恵文化振興係長、文化振興係業務主査新本美彩
欠 席：審議会委員 森部忠彦委員、山下善行委員、豊村良子委員
傍聴者：なし

配布資料

- ①レジュメ
- ②【資料 1】平成 30 年度古賀市立歴史資料館要覧（案）
- ③【資料 2】古賀市文化芸術振興計画アクションプラン見直し案
- ④アクションプランの白黒コピー

1 開会のことば

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1)「平成 30 年度古賀市立歴史資料館要覧（案）」について

4 協議事項

- (1)古賀市文化芸術振興計画見直しについて

会長：それでは今日の協議事項、アクションプランについて詰めていきたいと思えます。これまで皆さんからたくさんの御意見をいただきながら、少しずつアクションプランを今後の 5 年に向けてどう見直していくのかということをお話し合ってきたところです。前回までをもとにしながら、事務局がまとめています。我々の前回までの意見がどのように反映されているのかということをお今日確認しながら、会を進めていくことにしたいと思っています。今日これまでの意見をもとにこういう変更をしていますという説明をしてもらいますけども、それでもやはりまだここが気になるというようなことがあれば、今日審議していきますけど、もし時間が足りなくなるようでしたら、また会を改めてということになりますので、短時間ですけれども集中的に皆さんの意見を出していただきながら、取りまとめていきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。皆さんの手元には「アクションプラン見直し案」ということで、A 3 の紙が 2 枚と A 4 の紙が 2 枚あるかと思えますので、それについて事務局から説明をしていただきたいと思います。

事務局：「資料 2 古賀市文化芸術振興計画アクションプラン見直し案」について説明をさせていただきます。こちらの資料、実際に市民に配布するときには写真などをもう少し入れたレイアウトにしますが、今回は審議の内容ということで文字のところだけ抽出したような形でお出ししております。

まず A 4 2 枚のうちの 1 番左上に「いま古賀起こすとき」と書いてある「古賀市文化芸術振興計画ア

クシヨンプラン」です。こちらにはもともとのアクションプランに書いてありますQ&Aに該当する部分で、「古賀市文化芸術振興計画」とは？」そして「古賀市文化芸術振興計画」では、目的を達成するためにどんな方法を考えている？」、そして「アクションプラン」とは？」「アクションプランの見直しとは？」「アクションプランに書いている市民、団体、行政の定義は？」「アクションプランの「行政がおこす」に書いている長期、中期、短期の定義は？」というQ&A方式で書かせていただいています。

こちらをめぐっていただきまして、次に「古賀市文化芸術振興計画について」という形になっております。こちらにも現行のアクションプランに書いてあります「古賀市文化芸術振興計画の概要」、こちらについて記載しているものとなります。ただしこちらについてですが、第1回の審議会でも申し上げましたけれども、現行のアクションプラン、実は基本になる古賀市文化芸術振興計画との乖離が見られておりまして、そのため各方策の階層の考え方については、今回、緑の審議会計画の8ページ、こちらの「古賀市文化芸術振興計画の全体図」こちらをもとに統一するようアクションプランの階層を今回見直しさせていただいております。またあわせてそのあとのA3資料の各項目についても、そもそも計画のどこに属するかを再度確認して、必要に応じて移動修正を行っているものでございます。こちらA4の表についてはほとんど計画からの抽出となっております。先ほどの計画8ページの階層を当てはめて、計画の内容を盛り込んだものがこちらの表となっております。非常に文字が小さくて申しわけございません。

次に1枚めぐっていただきまして、カラー刷りの「古賀市文化芸術振興計画アクションプラン」です。こちらは前回まで皆様に御審議をいただいたアクションプランの内容を書かせていただいております。順番などが若干変わっておりますけれども、そもそもアクションプランの順番として環境づくりがまずあって、そのあとに個性を起こす、魅力を興す、それが誇りをおこす、というつながりになるかと思っておりますので、順番を変えさせていただきまして、1番左に環境づくりを持ってこさせていただきます。そして真ん中と1番右に「古賀市の個性を起こす」、「古賀市の新しい魅力を興す」という形で載せております。こちらについては、4ページ目の「アクションプラン見直し箇所説明」とあわせて見ていただきたいと思っております。こちら移動や追加などを行わせていただいておりますが、前回まで皆様に御審議いただいた内容について削除した部分は一つもございません。

まずカラーで刷っている資料で頭に「★」がついている部分が追加項目となります。この項目は第3回の会議でいただいた御意見「古賀市の環境を生かした文化芸術活動」そして「活動の見える化」を考慮し、こちらのほうで案を考えた部分になります。「市民がおこす」の「宝を見つける」のところに追加している「文化、歴史、風景などの古賀市らしい環境を見つけよう。」、続きまして「宝を伝える」に、「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境について話そう。」、続きまして「宝を守る」に「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境を守ることを意識しよう。」、続きまして「団体が起こす」の「宝をいかす」に「文化、歴史、風景など古賀市の環境をいかした文化芸術活動を行おう。」、「宝を伝える」に「屋外での活動や広報の方法など、「見える」文化芸術活動を意識しよう。」以上が追加項目となります。

続きまして「▼」が頭についている部分については、もともとの項目から文化芸術振興計画にうたう項目と乖離しているのではないかと思う部分について、こちらで確認をさせていただいて移動したものにいたします。1番最初の項目についてカラー刷りの資料の「市民がおこす」「環境づくり」に

「▼」で「文化芸術をテーマとした意見交流を行い、文化芸術活動を楽しもう。」という部分があります。こちら移動前は「今ある宝を再認識」のところにありました。移動した理由としては、「古賀市文化芸術振興計画」の中の「環境づくり」4項目目「古賀市の文化芸術環境について市民が語り合える場を設け、市民の文化芸術環境の向上を図ります。」この文章に属するかと考えまして環境づくりのほうに移動させていただいております。残りの項目もそういった形で移動理由と、移動項目について書いております。「団体がおこす」の今「宝をいかす」にある「地域の公民館や身近な施設を活用するとともに、古民家等の利用可能な場所を開拓し、文化芸術活動の場として活用しよう。」こちらは計画値中「古賀市の個性を起こす」「宝をいかす」項目の「市民が文化芸術活動の場としてさまざまな公共施設や民間施設を活発に利用できるよう、施設活用策や活用に対する支援策を検討します。」これに属するかと思いましたので、「宝をいかす」に移動させていただいております。こういった形でこの表は移動後の項目、それから異動した理由、計画にこういう条文がありますという形でまとめております。そのような形でこの「アクションプランの見直し箇所説明」の資料を見ていただければと思います。事務局からは以上となります。

会長：前回までの皆さんの意見について新たに盛り込むべきことについては「★」で書いていますので、皆さんの御意見というのが、反映されてるかどうかという確認をまずしてください。それと移動箇所、もともとあったものをそれぞれ「▼」のところで移動させています。それが適切な移動になってるかどうかの確認というものをしていくことになるかと思えます。まずは「★」ですね。前回御意見いただいた中でどうなのかということでごらんいただきながら御意見いただければと思います。いかがでしょうか。文言としてもこの文言で自分が言ったことが説明できるかどうかというところもあるかと思えます。それぞれ御意見あるようでしたら、自分が発言したところがどう反映されているのかということを確認するとか、またほかの委員の方が言われたことについても、この言葉で本当にいいかということ御意見いただきたいと思えます。よろしくお願いします。前回の議論の中で出た「らしい」、「古賀らしい」とか、古賀の特色を前にもうちょっと出す。それと都甲先生が言われた「見える」ということが今回に盛り込まれているところですけども、そのあたり表現としてどうなのかということがあるかと思えます。あとは風景とか、歴史とか文化っていうこともありましたけれども、風景、景観ですね。そういうことも盛り込みたいという話は出たかと思えます。市民にこれが手渡されるわけですけども、読んでいただく中でこういうものは短文で書かれているわけなので、イメージできるかどうかということが大きいです。全部にイメージが膨らむかということはどうかわかりませんが、例えば「宝を伝える」「宝を守る」というところで、1番上の「★」「市民がおこす」ということで市民向けにこの言葉が送られるところなのですが、「宝を伝える」というところで「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境について話そう。」としています。「宝を伝える」ということで「話そう」。「宝を守る」というところ「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境を守ることを意識しよう。」と。環境というところまでは同じなのですが、下二段のところ、「について話そう」「守ることを意識しよう」というところで「伝える」「守る」というところについて、このあたり市民がきちんと区別して意識ができるかと、イメージできるかということもあるかと思えます。あとは言葉の使い方だと思うのです。都甲委員、いかがでしょうか。前回いろいろとお話出していたいただいたものが果たして盛り込まれているのかどうかという観点から。

都甲委員：おおむね盛り込まれていると思っています。一つ私が言葉として気になっているのが、例

例えば「市民がおこす」「団体がおこす」というところが呼びかけ調になっています。そして「行政がおこす」ところは「提供します」「目指します」ということで、こういうものなのかどうかはわからなかった。呼びかけでいいのかどうかということも議論してもいいのかなと思いました。「★」をメインにするとそこが気になったところ。もうひとつつけ加えさせていただくと「話そう」なのか「話し合おう」なのか、表現の問題ですがそういうところが少し気になりました。

会長：ありがとうございます。上2段「市民がおこす」「団体がおこす」のところは「〇〇しよう」とか、決起するとかそういう書き方です。そして「行政がおこす」については、ですます調、「何々します」という書き方になってる。このあたりのところはアクションプランの書き方として他市町村などはどうなってるのか。古賀は古賀でやり方があると思うのですが、市民団体に向けては「何々しよう」という押し出す形で、行政は「します」というところで違う。それが受け取り方としてどうなのかと思います。それと今お話あったように「話そう」というところは、それは個なのか、他者と、みんなで一緒に話し合おう、交流の場をつくって話し合おうとか、というようなイメージを抱かせるのか。これ事務局のほうから何かありますか。「何々しよう」ということと「ですます」というところでは。

事務局：こちらですが現行に合わせた形となります。現行のアクションプランも「市民がおこす」「団体がおこす」が呼びかけの形、それから「行政がおこす」がですます調となっているので、最初のプランをつくったときに何かこだわりがあってこのような形にしてあるのかなと思います。そのまま踏襲してつくらせていただいた形になっております。以上です。

会長：委員の方々は市民であり、団体に所属されてる方もおられるわけですから、自分たちの立場に立ったときに、前は前回として考えて、自分たちの立場に立ったときにその言葉はどういう印象を持つのかということだと思います。

久池井委員：市民の場合は主体がはっきりしないです。だからやっぱり呼びかけになるのは仕方がないのではないかと思います。だれかが責任持つてするというわけではないですから。ただ私は見せていただいた中で、例えば「見つけよう」とか「機会をつくろう」とか「話そう」とか、呼びかけの中でも活動を促します。アクションプランらしいことだと思います。ただ「宝を守る」の中では、「意識しよう」になっています。「意識しよう」というのは内面的なことでは表に出てきません。そうするとアクションプランとしての言葉としてはどうかと思います。例えば「守る」となればなかなか難しいのですが、実際風景もそうですが、いろんなところで守る活動が行われています。環境問題も。そうしたらこういう「守る活動に参加しよう」とか「取り組もう」とか、そういうふうにアクションを促すような呼びかけがいいのではないかと思います。

会長：そうですね。内面的なのか、行動を呼びかけるのか、そういう判断基準を持って考えると、非常にわかりやすくなったかと思います。

中山委員：呼びかけの文章になっているのは、先ほど言われましたけれども市民の主体性を促すという部分での言い方ではないかと思いますが呼びかけでいいのではないかと思います。あとは都甲委員が言ってくださったみたいに、「宝を伝える」で「風景などの環境について話そう」というところですけども、これは「環境づくり」のところでも「意見交換を行い」と書いてありますので、交流を進めていくという部分では、先ほどもおっしゃってましたけれども「話し合おう」とかそういう表現になるのではないかと思います。

松田委員：史跡案内をやっておりますが、「宝を伝える」「宝を守る」の項目の中で、すでに私ども史跡案内ボランティアでは「宝を伝える」ということで活動を行っていますし、行政でも生涯学習推進課で市民講座という形で既にやってるということで、活動を広げたいと思っております。それと「宝を守る」という部分では、残念ながら大変遅れている、これからスタートという感じで。既に先ほども他の委員の方が仰っておられました、環境の団体では既に河川を守るとか、海岸清掃などを既にやっています。それからほかの市、例えば福岡市では樹木1本1本に申請すれば保護してもらえとか、そういう制度もあります。そういうことで環境の問題はかなり進んでいますけど、残念ながら我々この文化芸術はこれから一から始めようということでアクション、行動を起こすまでいっていないので、早くそういう活動に取り組めたらいいと思います。それにつきましてはやはり行政が宝を守るための姿勢はもう少し見せてほしいと思います。例えば古賀市には国の史跡を含めて19件ほどの県指定文化財、市の文化財ありますけれども、残念ながら今のところ文化財は指定をして終わりということで。本来であれば指定されてこれから保護が始まるべきなのですが、残念ながら遅れていますので、そういうことでぜひ事務局にはこのアクションプランを実行するための裏づけとなる予算なり財政の考え方を簡単に教えていただきたい。例えば国の史跡であれば国からの助成が年間通してあるのかどうか。そして県指定、市の指定の場合ほとんど市の指定の場合は予算がないのではないかと思いますので、その辺の考え方について教えていただければと思います。よろしくお願いします。

事務局：文化財を守るという形では船原古墳については今調査中ということでございますので、これは当然文化庁からの補助が出ております。もちろん市の指定をさせていただいてる部分もございまして、この部分についても補助が出る部分についてはこちらのほうから申請してやっていくという部分もあります。ただやはり経年劣化でどうしても覆いが悪くなったりなど、今私どものほうでもこれは修繕しなくてはいけないのではないかとということでは、県のほうにもお願いできる部分についてはお願いしていくということで予算化できるものはしていくということにしております。ただ市の単独財源で行うということになりますと、やはり全体的な予算に反映されてまいりますので、こういう部分については十分な検討が必要かと思っております。そういう形で今動いている状況でございます。以上でございます。

松田委員：そうしますと予算についてはその都度という形になりますか。

事務局：今現在は悪くなった部分についてはやるという方向では進めておりますけど、どうしても予算が絡むものでございまして、この辺は検討材料がまだあると思っておりますので、御意見いただいた部分がございまして、そういう部分は反映できれば、文化財係と協議を進めたいと思っております。以上でございます。

松田委員：ありがとうございます。

会長：他に何かございますか。今のところの確認ですけれども、1番上の段のところでは「宝を伝える」のところ「話そう」になっているのを「話し合おう」という言葉に変えるということよろしいですか。

そして「宝を守る」のところは「意識しよう」ということではなくて、環境を守る活動を松田委員からの話もありましたが「広めよう」とか、やはり拡大していこうといひますか、そういうことを書いていたほうがいいのかと思っております。そのあたりいかがですか。今後の活動を「広めよう」のほうが、まだ広まってないという話も今出たので。

そして2段目「団体がおこす」で「屋外での活動や広報の方法など、「見える」文化芸術活動を意識しよう。」としていますが、ここはどんな言葉にすればいいでしょうか。実際に行動を起こしてもらいたいということですから、どんな言葉がいいでしょうか。

都甲委員：例えば「芸術活動に努めよう」とか少し弱いかもかもしれませんが、そういう表現もあるかと思えます。「活動を行おう」というのもあると思えます。

会長：団体の方々もいらっしゃいますが、どういう呼びかけをしたら自分たちが「やるぞ」という感じになりますか。団体の方々から言っていただくのも大切かと思えます。

谷口委員：では団体のほうから。やはり「意識しよう」では意識したまま表面に出ないので、思いっきりやりなさいとか、「行おう」とかが1番適切かと思えます。やはり「意識しよう」だけでは考えるだけで外に出ないのではないかと思えます。

ほかに「宝を見つける」で「積極的に子どもが文化」という部分があります。「子どもたち」としたほうがいような気がします。「子ども」とするとどうしても自分の子どもしか意識しないのですが、「たち」になると近所の子どもや知り合いの子どもなど意識づける雰囲気を与えられるかと思えます。

会長：3段目の「行政がおこす」の短期の「宝を見つける」の右側のところが「子どもたち」になっているので、今お話あったように、上のところも「積極的に子どもたちが」にしたほうがいいのではないかというご意見です。これは何か単数にする意味はありましたか。

事務局：ここは現行の文章そのままになっております。以上です。

会長：では「たち」に変えるということでもいいですか。そして今お話あったように「屋外での活動や広報の方法など「見える」文化芸術活動を行おう」、「行おう」「実施しよう」「やろう」という言い方、どうですか団体の方。

中山委員：「行おう」とした方がいいと思えます。「行おう」という言葉になれば、これを意識して考えていくことになると思えますのでその表現のほうがいいと思えます。

久池井委員：私も「行おう」のほうがいいと思うのですが、例えば団体の方々の受け取り方が「常にそうしないといけないのですか？」と、これはなかなかハードルが高いです。だから高く目標を掲げたけれども実際なかなかできない。だからここで一番言いたいことは、「意識しよう」は「意識して取り組んでください」という意味でしょう。だから「文化芸術活動を取り入れよう」とかそういった形でもいいのではないかと思えます。

中山委員：なるほど。「見える文化芸術活動を取り入れよう」

久池井委員：いつも入れる必要はないのですが、メリハリを持って活動する。

会長：この部分は前回都甲委員から「見えるという言葉はやっぱり大切ではないか」と、外に発信していく、自分たちの活動を自分たちで満足するのではなくて、やっぱりみんなに知っていただくことによって団体相互の交流も深まりやすくなる。しかし今話があったように「行おう」になると常に「見える」を意識しなくてはいけなくなるので、それよりもメリハリ、「これ勝負だな」と思われるものについては、やはり見えるようにしていこうというところで考えると、「取り入れよう」というぐらいのほうが、いつもということではなくて安心するというところもあるのではないかということですがどうでしょうか。いいですか。

他に何かありますか。「▼」のところまだ意見が出てませんが。

都甲委員：「宝を伝える」の「アウトリーチ」というのは一般的に概念として伝わるのかということ

が今気になりました。

会長：この言葉は前回も入れているところでもあります。特段用語説明をアウトリーチに入れているものではないのです。この審議会の中で、委員の中で共有できている言葉であったけれども、実際にこのアクションプランが出る中において、アウトリーチという言葉自体が共有できる言葉なのかということです。共有できるとして出したところはあったけれども。そのあたりはどうですか、団体の方々もいらっしゃいますが。

平川委員：団体ですが、アウトリーチは使わない方がいいと自分は感じます。はっきりいってわからない人が「何のこと？」ということが確かにあります。

会長：行政などでは今外に様々な広報とか、出前講座という言い方をしていますけども、でも「出前講座します」とか、特に行政では何々課の職員が行って公民館で話します、みたいなことは福岡市ではよく出ているけれども、出前講座という言い方をしていますが、ただアウトリーチというものが出前講座というところと同じ概念に捉えられるか。

都甲委員：気になって辞書を調べてみたのですが、福祉とか使う団体によって意味がちよっと異なるようです。だから誤解といますか、なかなかわかりにくい概念ではないかなと。

会長：ではそこは「出前講座」という言い方はどうでしょうか。

都甲委員：ここの場合は単純に出前講座だけでもないような気がします。「伝える」わけですから。ようするに「外に出向く」とか、ここどういう言葉にしたらいいのかちょっと今私も言葉が思いつかないのですが、だからアウトリーチになっていると思うのですが。

松田委員：できるだけ行政用語ではなくて、一般市民にやはり伝わるように、言葉も文化ですから。新しい文化、流入してくる文化を取り入れることも必要ですけど、やはり日本語、言葉を守る文化も必要だと思いますので、その辺はやはりバランスをとる必要があるのではないかと思います。

会長：するとどんな言葉がよろしいでしょうか。

松田委員：やはりアウトリーチでは市民に伝わらないのではないかと思います。審議会では通じて、外に出した場合が難しいです。

都甲委員：対外的な活動、を活性化しよう、とか。

中山委員：出向くということですから。

会長：では今のところですが、「文化芸術を身近に感じられる体験や、対外的な活動を活性化しよう」どうでしょうか。

久池井委員：「対外的な活動」と言った場合は、その団体が行う対外活動みたいなイメージがあります。この文章は「文化芸術を身近に感じられる」というところが大事なところだと思うのです。そのために講座という言葉がふさわしいかどうかは別にしますけれども、体験講座という言葉が出たと思います。そうするとアウトリーチという言葉は業界の中ではよく使う言葉なのですが、市民にとっては難しいです。出前講座と言い切ると語弊があるのでしたら、例えば「体験講座や出前講座などの実施を活性化しよう」ぐらいで、もっと市民にわかりやすくしたほうがいいのではないかと思います。大事なのは前にある「文化芸術を身近に感じられる」というところだと思うのです。私はそんなふうに思います。「地域社会に出向いて」という言葉は非常にいいと思います。それがまさにアウトリーチが目指すところだと思うのです。それと「身近に感じる」ということが、要するに「文化芸術に直に触れる機会」ということになるでしょうから、「地域社会に出向いて、文化芸術に直に触れる機会

をふやす」みたいなそういう流れはどうかと思います。いかがでしょうか。

会長：「文化芸術を身近に感じられる体験活動や地域社会に出向いた活動を提供しよう」「実施しよう」「行おう」団体が起こす部分なので団体が提供する、行う。提供しようでよろしいですか。古賀に住まれてる方々のイメージがわかりやすいことにこしたことはないのです。じっくりくる言葉が一番いいですから。ではそれでいいですか。

それでは次が「行政がおこす」の「★」がありまして、修正案です。「今ある宝」から移動して「宝を伝える」短期の「行政がおこす」にある文章について、修正案が出ています。「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境や文化芸術活動を積極的に市内外へ情報発信します。」これは「宝を伝える」で「古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境」ということで今回取り入れてるところなので、そこを「行政がおこす」の文章の中にも入れている。ここは大丈夫ですかね。

では今のところで「★」の話が一応整理できてるのですが、あとは先ほどの呼びかけ、ですますということですが、これについてはどうですか。市民団体から見ると、例えば話し合いますとか、広めますとか言うよりも、市民団体に向けてアクションということで考えると、何々しようという行動を起こす呼びかけのほうが私は適当かと思うのですが、そのあたり皆さんの意見いかがですか。ではそこは呼びかけでいいですか。

それとあともう一つ気になるのが、行政のほうのですますはいいのですが、例えば「機会を提供します」「事業を再生します」「情報を発信します」それから「活用を進めます」「整備を行います」ということで具体的に何かするところがありますが、一つだけ短期の「眠った宝を起こす」で「教育機関との連携を図りながら、子どもたちの視点を大切に文化芸術活動を目指します。」ここだけが言葉として異質ではないかと思わなくもないのですが、そのあたりは皆さんどうですか。行政としてはどうかという部分は後で判断していただくことになるかと思いますが、この会としてはどういう言葉が適当なのかということだと思います。

中山委員：「子どもたちの視点を大切にしたい」という言葉が入っていますので、ここは本当に推進としていただきたいと思うのですけれども、これ短期に入れてありますが、本当に子どもたちの視点を大切に文化芸術活動をしていく、子どもたちの視点を入れていくというのはかなり難しいと思うのです。子どもたちにとってといいますか、そこに立った視点ということになると、なかなか難しいので、それでこの「目指します」というちょっと消極的な表現なのかなと思います。しかしこれを短期に入れてくださっているのです、ぜひ視点をというふうに言っていただきたいという、気持ちとしては推進していただきたいと思いますが、簡単ではないということも申し上げたい。私は子どもに接して活動してるのですが、口では子どもとともに、子どもたちの視点と言うのですが、本当に子どもたちからいろんな意見を引き出しながら、それを生かしていくというときに、膨大な時間がかかりますし、だからそのあたりは感じながらの目指すなのだろうかと思いましたが、その辺もぜひ子どもたちの視点を生かすためにはどういうふうに行行政の方たちがいろんなことを学ばれていったほうがいいのかとか、その辺もこれから必要になってくるのではないかと考えています。ですので気持ちとしては推進という言葉を入れた方がいいと思います。そう思ってやっていただくといいと思います。

久池井委員：ここが「目指します」になっているのは「教育機関と連携を図る」ということがキーだと思うのです。行政が直接子どもたち対象に行うのもありますけれども、大半の教育活動はやはり学

校が行います。そうすると学校は校長先生のもとに学校独自に考え方を持っていますので、直接こうしますと言うよりもそういった方向で進むことを行政としては推進していきますということで捉えてあるのではないかと私は思いました。もう一つは「子どもたちの視点を大切にしたい」というのは、学校教育はこれできるのです。環境問題でも子どもの視点でもう一回町全体を見直してみようとか、社会を見直そうとか、子どもたちの見える範囲でいろいろなことを考えてくるから、これは私はできるのではないかと思います。ただ「目指します」と言ったときにそれがお題目になってしまって、学校に直接届かなければ、これはなかなか生きていけないから「目指す」という言葉にしても強力に推進しないとだめではないかなと。ただ「行います」になると、ちょっと学校を飛び抜かした形になるのではないかと思います。

会長：そうですね。ここのキーは行政が地域全体を見る中において、学校と文化活動している個人、それから文化団体をうまく結びつけあいながら、よりよい子どもたちの活動を展開していくという環境をつくるために行政の役割という意識していく、認識していくということであると思うのです。そういうことを考えると、学校現場とするならば、それをがんがんやらせてもらうということになると、学校は学校で年間の授業計画というのがあるので、そこにどんどん打ち込まれてくるということになると学校のスタイルというものが崩れてくるので、やっぱり緩やかな連携を継続的に行うということについて言うと、推進ということになると、今言われたように学校を飛ばしてしまうということになるかもしれないので、やはり「目指します」くらいがいいのではないかと。最初はどうかかなと思ったのですが、今の話を聞いてやはり我々だけ、文化団体とか文化活動をしている市民だけが、ということではなさそうなので。

中山委員：今言われましたけれども、学校現場は本当に今時間がなくて、鑑賞活動も年に1回でもなかなかという感じでされていますので「目指す」という形にして、ぜひ行政から子どもたちの視点をとという形で学校にも働きかけていただくという感じで行けば、「目指す」でいいのではないかと思います。学校では子どもたちに話し合わせるという時間もなかなかなくて、今いろんなことも規則で決められてる感じなのです。子どもたちに何か起きる前に全部それを取り除いて、話し合う時間がなかなかないという感じになっていますので、そのあたりなかなか学校が余裕はないと思いますので、その辺のところを行政がカバーしていただいて、ぜひ子どもたちの視点を入れていっていただくというのではないかと思います。

会長：そうすると先ほどの子ども考古学部の活動というものは学校では時間的に難しいことを社会教育機関としての資料館で実施できている。それも長期スパン、2年のスパンの中で行っているということになった場合に、ここでもまた学校にフィードバックしていくというか、子どもたちの成長をフィードバックしていくということをしていくなれば、この一つのモデルという言い方をしましたが、ここで短期に入れていますが、こういう活動があるんですということを実際市民に対しても広報できるところになると思います。芽は先ほど見せていただいた資料館の要覧の中にもたくさんありそうなので、そういう芽を先ほどの「見える」というところで連動させていくということになると、このアクションプランというのも先行きが非常に明るいのではないかと思います。ではここは「目指す」ということで現行のままいきたいと思います。

ほかに「行政がおこす」で何か気づかれたことがありますか。

都甲委員：表全体を見てみると市民や団体に対してはたくさん呼びかけてるのですが、平面レイアウト

トの問題も出てくるかと思うのですが、行政は少ないと思われるのではないかと心配になりました。もし表現の問題だとすると、中期と長期を合わせて中長期と表現するとか、このままでは市民の方々が違和感を感じるのではないかと危惧しました。

会長：市民団体向けには「やろう」と呼びかけているけれども、行政は虫食い状態で本当にやるのか、と思わせてしまうようなアクションプランになっていけないのではないかとということです。ちょっと空いている感じはしないでもないです。前回アクションプランの場合は短期長期ということで区切っていました。しかし長期とおいたものについても中期的に考えられることがあるのではないかとということを考える中で、今回は中期長期的に3段階にしているわけです。しかし3段階にするとところで意味はあるのですが、見た目の問題として市民がどういうふうを受けとめるのかということもやはり大切な要素ですから。そういう意味では今都甲委員から中長期という言い方でまとめるということはどうだろうかという意見です。

松田委員：事務局から行政としてやれることをやるべきことを出していただいたり、委員含めて市民や団体から要望していくとか、確かにこれ偏って見えますので。

そしてもう一つですけど、先ほど報告があつてますように子どもたちの視点を大切にという部分で歴史資料館では既にいろいろな企画を実行しておられますが、例えばこれが行政とした場合に、行政全体がどこまで波及するのか、教育委員会だけの問題なのか福祉とか、他の部まで波及していくのかその辺の担当部署といいますか、行政の中はどうでしょうか、事務局のほうにお尋ねします。

事務局：今回のアクションプランはあくまで計画だけで申し上げますと、文化芸術を推進していくためのアクションプランという形になっています。もちろん各課にはこちらの文書についてお伝えしますけれども、それが福祉に波及していくのかどうかは担当課がこれを見たときに感じていただけての判断になるかと思えます。あくまで今回こちらに出ている分は文化芸術振興計画のアクションプランとして子どもの視点を大事にしていくという言葉を今回取り入れさせていただいているような形になります。

会長：今の松田委員のお話でいうと1番右のところ「古賀市の新しい魅力を興す」「ざわめきづくり」で「行政がおこす」の短期「他部局との連携を図り、情報を共有し、新しい発想の事業を進めます。」というふうに言っているので、やはり横ぐしを刺す、行政の縦割りではなくて、文化芸術もそれぞれの部局の活動についても意識してくださいということは明記しているところです。もう一つはその下の段で「観光や産業を文化的資源や文化芸術活動と組み合わせることで、お互いの新たな魅力を発見し、活性化を図ります。」というところ。これも今地方創生の中で文化資源というものを広く市民の方々に知っていただくということ、さらには外国人旅行者の方々に知っていただくということでは、観光との関係ということを非常に強固に提言しているところもありますので、この部分非常に接点が見出しやすい。ただ、今お話あつたように、文化芸術というものがやはり健康とか福祉との関係というものが今おおいに言われてるところなので、何かそのような文言が出てくると、松田委員のお話のところでもうちょっと市役所全体として文化芸術も健康福祉に非常に大きな寄与をしているところで、何か出てくるといいのではないかと感じがします。

松田委員：今仰られた「ざわめきづくり」の部分でいきますと、文化課の役割が大変に大きいですし、重要だと思います。そして「行政がおこす」の虫食い状態のところは、先ほど「ざわめきづくり」、これは全部入っていきますので。だから書類上は虫食い状態だけど、やはり「ざわめきづくり」の中

心になって動いていただく文化課は大変になると思いますけど、よろしくをお願いします。

平川委員：前回も自分が団体なので気になっていたところではあるのですが、「環境づくり」「行政がおこす」のところで「文化芸術と他のジャンルが交流・協働する機会を作ります。」とか、「文化芸術に関するネットワークづくりを行います」とかが、中期、長期的には「文化芸術に関する情報の収集・提供を一元化するなどの、センター的機能を担う拠点の整備を行います。」というふうに書いてありますが、いろいろなほかの団体との兼ね合いなどを考えたら、今書いてあるのは文化芸術オンリーのことですよ。文化芸術のことなので、それだけしか書いてないかとは思いますが、将来的には結構混じっています。うちももともとは環境団体なのですが、廃材工作などもあるので文化芸術もあるのではないかと呼ばれている部分もあると思うのですが、そういう垣根を越えた情報収集とか一元化ということには至っていない、というふうに考えたほうがいいのですよね。現段階では。

会長：実際に生活していてどうですか。至っていますか。

平川委員：私どもも定年が近くなってきて、そういうときに「さあ、何をしよう」となったときに、文化芸術も好きだけど、ボランティアもしたいし、健康や福祉にも関係するときに、一元化されると、とてもリタイヤする人がわかりやすい、選びやすい。歴史にも興味があるけれども、健康づくりのためのウォーキングをしたいとかいう人もいますし。

会長：プラットホームがいろいろなところにあるものが「あそこにいくと選択できます」と。

平川委員：そういう風にはまだなっていない、考えられはていない。

会長：現状では情報提供について各部署が情報提供しているのですか。

事務局：まずは市民が活動されるということであれば市民活動支援センターというところが今に担っている部分があります。個人で活動されている方も、恐らく市民活動支援センターが担うと思うのですが、例えば福祉の部分であるとか、例えば社会教育団体であるとか、そういうところは各所が持っている状況ではあります。だぶっている場合もございます。ですので「こういうふうなことをしたい」ということであれば、紹介している状況であると思います。しかし今委員がおっしゃるとおり、一つのところ、ワンストップでということになれば、そういう機能を持つのはどこにするかということは先ほど言いましたとおりに連携をとるところでは、どういうふうに、文化課が手を挙げて「集まってこういうふうにしましょうか」というところまではまだ行けてない状況がございます。ただそういう意見が出ていることは間違いない。どこからも出ているような感じがありますけども、退職を間近に控えた方々が何をしたらいいかというときに、やはり行政のホームページを見られることが多い。社会教育団体とか、生涯学習ということになれば、生涯学習推進課に行って「こういう団体があります」ということは紹介をしているのですが、確かに言われたとおりに、福祉であるとか、環境であるとか、そういうふうに言われると紹介をすることができたとしても、今のところは各課、保健福祉部であるとか、環境課のほうにこういう団体がございます、という答弁になってしまうところがございます。そういう要望が出ているということは私どもも各部署には伝えるべきところにはあるかなと感じております。

会長：そうすると、例えば中期のところ、先ほど平川委員からお話あったように、「文化芸術と他のジャンルが交流協働する機会をつくります」と言っています。中期的には「協働する」という活動をお互いに共有し合うという場をつくります。その後のステップとするならば、文化芸術と他のジ

ジャンルに関する情報の収集提供を一元化するなどのセンター的機能といたしますか、最終的にはもう少し幅広い情報がプラットフォームに機能が備わるような、例えば今後について言うと、市民活動支援センターがそういう一元管理できるような方向性も、行政には考えていただきながら進めてもらいたいというような要望を出すならば、ここの中に今のような文言を入れていくと長期的な課題として行政が捉えてくれるかなというところがあります。今ここだと上とのつながり、短期には団体の活性化を図るために公募などの補助金、そういう情報を団体に流します。次のステップとするならば、少しずつ文化団体が強くなっていく、ということでは他ジャンル、いろいろなジャンルの団体と交流する中で自分たちの活動の幅も広がっていくということとか、いろんな知恵やアイデア貰ったりする。そういうことも、行政としてそういう場をつくります。その次に、今後やはり高齢社会に突入している中において、本当に地域で活動したいと、それもあれもこれもという人も当然いるわけだから、あれもこれもという情報を収集することを叶えるためには、やはり交流協働ということがあることを前提として、情報が一元化されていくという流れというのは、1番スムーズではないかと思います。そうするとここについて今は「文化芸術に関する」という文化芸術だけに特化した書き方をしているから、そこを上との関連からすると、他のジャンルとていうところまで入れておくと、行政としても一つの目標になる。

事務局：それを文化課が担うのか、ということになると今はちょっと言えないところです。

会長：ただどこかではしなければいけないわけなので。

松田委員：大変難しいですと、この問題は。責任重大になります。当然このアクションプランというのは、議会等にも上がって、実施の段階のチェックや最終チェックもされます。そういうことで、具体的に書いてしまうと難しいですが、責任重大だと思います。

事務局：ここに書いてますとおり、文化芸術に関する情報の収集、提供の一元化ということであれば、文化芸術の部分については文化課が担うということで、その情報を持って、これを一元化するっていうのは、また別のところが情報を全部集めますというところに、私どもがこの情報を出せば、一元化の方向には向かうのではないかという感じがしますので、できましたら私どもとしてはアクションプランの中では文化芸術という形で特化させていただいた部分で、まとめていきたいと考えますので、この案でいかせていただきたいと思います。

会長：とにかく狼煙をあげる、ということですね。

事務局：はい。

谷口委員：このアクションプランは文化課ではなく、古賀市全体のアクションプランだと思うのです。だから文化課が、生涯学習推進課がという前に古賀市全体としてこういうセンター的機能をつくり出す、といったものを上げたら、市民もやるなと思う。だからセクションはちょっと横においてそれは入れてほしいと私は思います。そういうことを市民も、課長も皆さんそういう要望があるとおっしゃっていたから、古賀市全体、古賀市役所全体の行政としてこうしたいというのがアクションプランだと思うので、入れていただけませんかというお願いです。

事務局：全体的に言えばマスタープランがまずでき上がって、1番大きいのは古賀市のマスタープランになると思いますので、文化課でいえばこの文化芸術振興計画がありますし、他のところでも何々振興計画というあります。そういう部分があって、一つのものにといいことで、こういうふうなわき上がりがありますということだけは、私としてはお伝えをして、このプランの中では、文化芸術での

情報の一元化をまずは目指しましょうということをやまず行って、その次のステップのときにこれをやりましょうということはあるのではないかと考えております。

会長：そうするとこのなど書きです。このなど書きで読み込ませていくという。それは保留をしつつも、やはりそこに向けて調整をしていくというための「など」という書き方になるので、今お話あったように、このアクションプランについては文化芸術の推進にかかわるものである。しかしそれぞれの所管課があるので、所管課のところであまり狼煙を上げすぎてしまうときつい部分もある。しかしこの言葉を入れる意味というのは、他部署との連携というのがあるわけだから他部署にも意識してもらおうためのアクションプランにもなると。まずは文化課で自分たちの文化芸術に関する情報などを一元化する、ということをやきちんと盛り込むということは、ほかのところもやっぱりそういう要望が当然出てくるわけだから一元化していかなければいけないと。最終的には一元化それぞれがしたものというのは、プラットフォームの中に乗せられてくるという、そういう長期的な図式というものを考えたときに、これは絶対外せないわけだから、残しておいてもらわないといけないということがあるので、我々の中においては長期的にプラットフォームに乗せていくためにも、今回の一元化ということ非常に意味がある。この文言というのはすごく意味があるということで、理解するというのはどうだろうかということですよ。

そして虫食いの状態をどうするのかという問題があるのですが、最終的なこういう形になるのですか。そうすると三段構えにすると空いてしまうことになります。そこはちょっと考えてもらったほうがいいのではないかと。最終的にこういう形にするのであれば。

久池井委員：虫食いということですが、アクションプランのレイアウトについて今までのアクションプランについては「古賀市の個性を起こす」と、「古賀市の新しい魅力を興す」の二つの大きな柱になっていて、環境が下であって、到達する誇りとなっていますが、二つの大きな柱ということで、ぱっと見やすいです。今回の案でいきますと中身を吟味せずにぱっと見たときに「古賀市の個性を起こす」だけどんとくるわけですよ。実際言うと、二つの大きな柱の右「新しい魅力を興す」という部分が隅の方にいった感覚があります。実は中身が多い部分が真ん中をとって、そしてその分詰められた形の部分が左右に来ています。これレイアウト上から言って、難しいのですがまずいと思います。だから虫食い状態をなくすということは、市民に対してアピールする内容からして、これだけの大きな柱がありますということは、ビジュアル的にも訴えないといけないのではないかと。このままではまずいなと思います。

会長：その取りまとめは事務局考えてもらえますか。

事務局：もし委員さんたちの御了承がいただければ、何かしらわかる形で中期と長期、先ほど中長期という形でご提案いただきましたけれども、中期と長期の枠を一つにして、もちろん中期と長期わかるように色分けか何かをするような形で枠自体は一つにする。そうすると前回と似たレイアウトになってくるので、虫食い状態が改善されてくるかと思えます。色分けか文字の色を変えるなどで中期と長期の見分けがつくような形でレイアウトは業者と相談させていただきながら進めていこうと思えます。あと「古賀市の個性を起こす」と「古賀市の魅力を興す」についても、枠を整理しながら、少し「個性を起こす」の枠を狭くするなど同じぐらいの大きさか、内容の関係で「個性を起こす」がどうしても少し太くなってしまいかもしれませんが、「魅力を興す」の太さを調整するような形でレイアウトを印刷業者と相談させていただきような形で提案させていただきたいのですが、いかがでござ

いでしょうか。

松田委員：その前に、できましたら「市民がおこす」「団体がおこす」「行政がおこす」の3分割が「行政がおこす」が広すぎるので3等分くらいにしてもらえれば。そして文字を市民に配るのであれば小さいと思うので、新聞も字を大きくしていますし、もうちょっと大きいほうがいいのではないかなと思います。

会長：最後に全体的に。今回「★」についてもう1回内容の確認、それと言葉の確認をしてもらいました。それぞれ確認ができてきています。あと全体的な流れということでは、行政での短期中期長期ということで、今回3分割する中においては、少し間が空くというところが出てきていますので、それについては今後レイアウトを進めるというところで調整がきくことになるかと思っておりますので、それは事務局のほうにお願いをしたいと考えます。

今日につきましては、皆さんの御意見がこのアクションプランの中にそれ相応に反映されているというふうに判断できますので、これをもってこのアクションプランの検討を終了させていただき、今後については事務局のほうにお任せして市長への答申を進めていただくとしていきたいと思っております。

では今回の協議を一つまとめる形にして、今後については事務局のほうにお願いをするということで、この審議会のまとめということにさせていただきたいと思っております。

5 その他の事項

6 閉会のことば